



広報

かなぎ

編集と発行

金木町企画室

青森県北津軽郡金木町
大字金木字朝日山323
電話☎2111 内線240



富士には
月見草が
よく似合ふ

1998
5

No.385

写真提供：河口湖町役場

太宰治記念館

斜陽館

オープン

“太宰没五十年” “源（ヤマゲン）・旧津島邸復活五十年ぶり”



▲鳴海町長、桑田町議会副議長らがテープカットでオープンを祝う

作家・太宰治（本名〓津島修治）の生家・旧津島邸が、太宰治記念館「斜陽館」として生まれ変わり、四月十七日、記念式典が盛大に行われました。

鳴海町長や太宰の長女、津島園子さんから多数の来賓のもと、館内で関係者が神事を執り行いました。引き続き、この日を待ちわびていた町民らが見守る中、正面玄関前でテープカットが行われ、拍手と歓声に包まれながら斜陽館がオープンしました。

中央公民館に場所を移して行われた式典で、鳴海町長が「太宰文学を未来永劫、語り継いでいくためにも『斜陽館』を保存、活用していきます」と式辞。青森県知事（代理〓山本達雄県商工労働部長）、青森県議会議長（代理〓長峰一造副議長）らが祝辞を述べ

ました。

津島園子さんは「四、五歳のころ家族で疎開していた時が、父にとって一番の幸せな日々だった。その父が、死を選んだ多くの要因の一つに津島家が手離された（昭和二十三年）ことがあるのではないかと。帰るところを失ったことは、大変な衝撃だったと思う。

母（美智子）に『立派な家なんだ、大きな家なんだ』と、自慢げに話していた。太宰文学の原点はあの家であり、家が元のようになり父もどんなに喜んでいることでしょう」と、感謝とお礼を述べました。太宰が晩年を過ごした、東京都三鷹市の安田養次郎市長は「時を超えて生き続ける太宰には、熱い思いがある。これをきっかけに金木町ときずなを深めていきたい」と話していました。

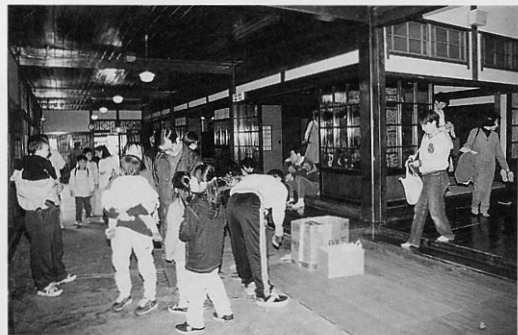
この後、祝賀会が行われ、乾杯で斜陽館オープンを祝い、出席者に町の郷土芸能「金木さなぶり荒馬踊」と「嘉瀬奴踊」が披露されました。記念式典終了後、十九日まで無料開放された斜陽館を訪れた人は、八千人余り。ゴールデンウィーク期間中（四月二十九日～五月五日）は、県内外から一万余り。四月十七日から五月五日までに二万二千四百六十四人の町民や太宰ファンが足を運びました。また今年、小説家の新人賞として昭和五十三年の第十四回を最後に中断されていた「太宰治賞」が没五十年を機に、三鷹市と築摩書房共同主催の形で復活するなど、斜陽館オープンが全国的な太宰ブームの火付け役となったようです。



▶よみがえった太宰治記念館「斜陽館」



▶蔵の中にある
太宰作品とふれあう



▶大人から子供まで
大勢が来館

来館者の声

☆学生時代を金木で過ごしました。三十数年ぶりですが懐かしかったです。昔のままのところが多くて、多数の方々に見てほしいですね。

☆すごい歴史を感じます。太宰の本をしっかり読んでみたいと思います。来てよかったです。

☆素晴らしいかったです。太宰の本を販売していたら、記念に買って帰りたいかったです。

☆津軽の自然の中で、太宰文学が育ったんだと思いました。

☆太宰さんのことに興味があったので、すごく面白かったです。また今度、来たいな。

☆五十周年という時にこれで感激です。この家で太宰が少年時代を過ごしたんだと思うと感慨深いですね。

☆千葉から来ました。ここが太宰の生家だと知らずびっくりしました。(実家が近くなのに...) これから本を買って読みたいと思います。

☆ようやくたどり着いた。母の実家が青森でよかった。思ったより広く、とてもきれいで驚いた。

☆こういう家に住めたらなあ、って思います。二階の洋間が気に入りました。豪華でビックリ。

(感想ノートより抜粋)

「町史に新たな一ページ」 太宰のふるさと友好都市協定



太宰文学を通し文化・観光交流 ～山梨県河口湖町と締結～

太宰治記念館「斜陽館」がオープンした四月十七日、金木町は山梨県河口湖町と「太宰のふるさと友好都市協定」を締結しました。

太宰がとりもつ縁で結ばれた両町は、各種の交流事業を通じて、文化・産業・観光にと、より一層の発展を図りながら二十一世紀へ向けて飛躍を誓い合いました。

記念すべきこの日、町の歴史に新たな一ページが刻まれました。

飛躍

発展

調印式

河口湖町は、人口約一万八千五百人、面積六〇・八九平方キロメートル、平均気温一〇・一度と自然に恵まれ、文化あふれる心豊かな人づくり、町づくりを通して「誇りを持って自慢のできる町」を目指しています。

太宰は、小説「富嶽百景」の中で、「富士には月見草がよく似合ふ」と表現して、河口湖町を「第二のふるさと」として愛しました。

一昨年来、河口湖町と交流を行い、親交を深め、晴れてこの日を迎えました。



▲両町長が署名、捺印



▲見守る河口湖町議のみなさん

調印式は、中央公民館で行われた斜陽館オープン記念式の席上、小佐野常夫河口湖町長、梶原亥之雄町議会議員はじめ二十人の河口湖町議会議員、当町の鳴海町長、白川町議会議長ら十三町議会議員多数の来賓者が見守る中、県産のヒバ板二枚を蝶番で結び、協定文を印刷した和紙を貼り付けたものを使用し、両町長が交互に署名、捺印。そして協定書が手渡されると、会場の拍手の中、両町長が握手し、固いきずなが結ばれました。

鳴海 義男 町長

「太宰のふるさと」として、観光の町づくりを推進していくうえで、大先輩である河口湖町の観光事業を手本とし、さらなる飛躍を遂げたい

小佐野常夫 町長

代表作『富嶽百景』で太宰先生は「富士には月見草がよく似合ふ」と。この言葉から町花に月見草を指定している。太宰文学を通して両町が、文化・観光交流をしていけるものと期待

交流経緯

- 平成8年7月 当町の町議会議員研修で「富嶽百景」の舞台となった「天下茶屋」や「お伽草子」の「カチカチ山」ゆかりの地である河口湖町を訪問。
- 同年11月 河口湖町小佐野町長様、渡辺町議会議長様一行が当町を訪問され、懇談会を開催する。
- 9年6月 河口湖町の「カチカチ山」文学碑の除幕式に当町の町長、成田教育長、白川町議会議長が出席する。碑の礎石に斜陽館の赤レンガが埋め込まれる。
- 同年7月 当町の町議会常任委員研修で河口湖町を訪問する。河口湖町に友好協定の申し入れをし、同意を得る。
- 同月 金木町太宰会が会員の視察研修で河口湖町を訪問する。

太宰のふるさと友好都市協定書

山梨県河口湖町は、作家太宰治の作品「富嶽百景」を執筆した際に舞台となった「天下茶屋」があり、「お伽草子」の「カチカチ山」ゆかりの地でもある。

青森県金木町は、小説「津軽」で紹介されているように太宰治の故郷であり、今なお生家「斜陽館」には多くの太宰ファンが訪れ、太宰文学のメッカとなっている。

太宰文学が縁となり河口湖町と金木町は、相互友好と親善の絆を深めるため、それぞれの歴史、文化、風土を基礎とし、教育、文化、経済等における町民ぐるみの交流と協力を図り、自然とのふれあいや地域の活性化をめざし、更なる交流を進めていくことを望んでいる。

限りない未来に向けて、両自治体の協調と発展を願い、ここに太宰のふるさと友好都市協定を締結する。

平成10年4月17日



太宰のふるさと

友好都市協定を

結ぶにあたり

山梨県河口湖町長 小佐野 常夫

偉大な作家「太宰治」の生家であり、旧津島家住居の復元工事が見事に完成されたこのたび太宰治記念館「斜陽館」として開館いたしましたこと、誠にありがとうございます。

河口湖町と太宰治との係わりは、昭和十三年九月に、作家伊藤鱒二の招きにより、旧河口村御坂峠の「天下茶屋」に六カ月ほど滞在され、その天下茶屋滞在をもとに執筆した「富嶽百景」が発表され代表作となったこと、また太宰治の名作「お伽草子」の中の一編「カチカチ山」は、富士山が絶景であり河口湖が望める「天上山」が舞台となっているなど、河口湖町での滞在は、恵まれた自然環境の中にあつて、心身ともにリフレッシュ

シユされ、婚約などを含めて作家としての再出発の契機になった場所とされており。金木町とは、太宰治を通じて議会研修で来町をいただいたことから始まり、二箇所目の文学碑建設等を機会に、両町の交流が始まったところであり。今回、図らずも金木町の計いを頂き、太宰治記念館「斜陽館」開館の記念式典の中で「太宰のふるさと友好都市協定」の締結式が盛大に行われましたこと、深く感謝申し上げます。次第であります。

ファイールドセンターなど、特色を持った文化的施設や観光の拠点が整備されているほか、温泉湧出による「富士河口湖温泉郷」誕生等により町のイメージは近年大幅にアップされ、年間七百万人近い方々においでを頂いているところであり。今回の「太宰のふるさと友好都市協定」の締結を契機として、金木町と河口湖町とが友好と親善のきずなを深めながら、文化や経済に限らず、町民ぐるみの幅広い関係の交流が図られますことを強く希望しているところであります。最後にになりましたが、金木町太宰治記念館「斜陽館」のご繁栄と、金木町の限りないご発展を心からお祈りいたします。

河口湖町は、富士山と河口湖を代表とした美しい自然環境に恵まれた町で、観光を中心として発展しております。特に、ハーブ館、ミュージアム、美術館、ステラシアター、

～ 町 民 憲 章 ～

- 一、恵まれた自然を愛し、緑と水と太陽の町をつくりましょう。
- 一、教養を高め、よりよい文化の町をつくりましょう。
- 一、親切で美しい、観光の町をつくりましょう。
- 一、勤労を尊び、豊かな町をつくりましょう。
- 一、きまりを守り、生きがいのある町をつくりましょう。



町 章



町の鳥 シジュウカラ



町の木 赤松



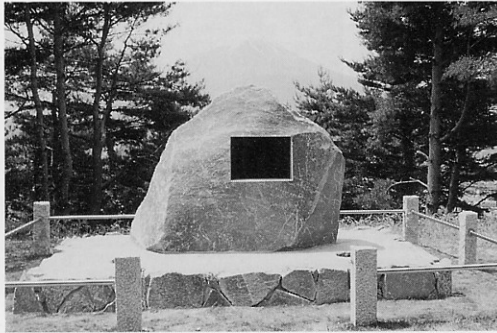
町の花 月見草

河口湖町 PHOTO

▶「富嶽百景」の舞台となった天下茶屋



▶天上山に建立された太宰文学碑(昨年)



▶河口湖日刊スポーツマラソン 毎年一二、〇〇〇人が参加



◀ハーブと富士山



◀八木崎公園を会場にハーブフェスティバル



斜陽館オープン・ 太宰のふるさと友好都市協定締結

★記念クイズ★

太宰治記念館「斜陽館」がオープンした四月十七日、金

木町は山梨県河口湖町と「太宰のふるさと友好都市協定」を結びました。

太宰が、河口湖町の「天下茶屋」を舞台にある作品を執筆したことなどがきっかけとなりました。その作品を次の中から選んでください。

- ① 「津 軽」
- ② 「斜 陽」
- ③ 「富嶽百景」

正解者の中から抽選で五名の方にテレホンカード二枚

組のセットを、十名の方に太宰のふるさと友好都市協定記念テレホンカードをプレゼントします。

応募方法

官製ハガキに住所、氏名、年齢、答え、電話番号をご記入のうえ

〒037-0202

金木町大字金木字朝日山323

金木町役場企画室まで

締め切りは

六月五日(当日消印有効)

当選者の発表は六月号に掲載

します。

たくさんのご応募をお待ちしています。



'98 金木桜まつり

桜はなくても“花より団子”

金木桜まつりが四月二十九日から五月五日までの一週間、県立芦野公園で開かれ、期間中十八万人（昨年三十三万五千人）の花見客が訪れました。今年も、四月中旬に例年になく好天が続いたため、公園内の約二千二百本の桜が十七日ころに開花してしまい、二十三日ころにはすでに満開を迎えていました。このため、開幕した二十九日は至る所が葉桜となりました。

二十九日、登仙岬入口で開会式が行われ、鳴海町長が「残念ながら桜はないが、金木町には見所が一杯あります。素晴らしい桜まつりにしましょう」とあいさつ。近隣市町村長ら来賓によるテープカット



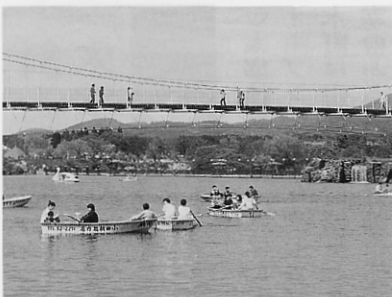
▲テープカットで開幕

トで開幕を祝いました。まつり期間中前半は、人も少なめでしたが、祝日となった後半は好天も手伝って、野外ステージで行われた石上久美子ショーやRAB杯カラオケ大会などには連日、大勢の人が繰り出し多彩なイベントを盛り上げていました。

桜はないがまつり気分が誘われて、園内の至る所で職場の仲間や家族連れなどが車座になり、（花より団子？）酒宴を楽しんでいました。このほか、各種スポーツ大会では子供たちが熱戦を繰り広げ、花火大会が一日順延されるなど、今年も天候に左右された桜まつりでした。



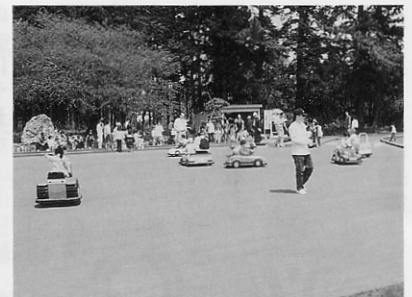
▲さくらのトンネル



▲陽気に誘われのんびりボートごぎ



▲客席と一体 石上久美子ショー



▲子供たちに大人気のバッテリーカー

▶お見事 琴けいこさん



▶四歳ながら“こぶし”をきかせ演歌を熱唱



▶あ、失敗 残念！（僕もやりたいなア）

